

1A-3 てんかん患者におけるTVゲーム施行中のてんかん発作の発生頻度

福島県立医科大学神経精神科

加藤光三, ○管るみ子, ○高橋留利子, ○渡部 学,
○丹羽真一

TVゲームがてんかん発作に与える影響。TVゲーム施行中にてんかん発作のあった例における光過敏性素因やてんかんの家族歴との関係について、福島県における実態を調査したので報告する。

＜対象・方法＞対象は調査の趣旨に賛同の得られた福島県内のてんかん診療施設において、入院・外来にかかわらず加療された6～30歳のてんかん患者である。平成5年2月20日～4月20日の2ヶ月間対象例全例に対してTVゲーム施行の有無、TVゲーム施行中のてんかん発作の有無、TVゲーム施行中のてんかん発作の有り例でのTVゲーム施行開始から発作までの時間、ゲームソフト、通常の発作との違い、光過敏性素因やてんかんの家族歴の有無についてアンケートを施行した。また各施設において、アンケート対象例全例についての調査時年齢、性別、てんかんの初発年齢、てんかん発作の国際分類を調査した。

＜結果及びまとめ＞

- 対象例全例は570例であり、そのうち382例がTVゲーム施行経験有り例であった。
- TVゲーム施行経験有り例382例中23例(6.0%)においてTVゲーム施行中のてんかん発作を認めた。
- TVゲーム施行中のてんかん発作有り例は男性が243例中20例(8.3%)、女性が136例中3例(2.2%)であり、男性例が多かった。 $(\chi^2$ 検定, $p < 0.05$)
- TVゲーム施行中のてんかん発作有り例の調査時年齢は16～20歳が85例中12例(13.9%)と最も多く、初発年齢は10～15歳が96例中11例(11.5%)と最も多かった。
- TVゲーム施行中のてんかん発作有り例の発作型は全般発作12例、部分発作10例、分類不能1例であった。
- TVゲーム施行開始から発作までの時間、ゲームソフト、光過敏性やてんかんの家族歴の有無については一定の傾向はみられなかった。

1A-4 特発性てんかん症候群と熱性けいれんのけいれんの家族歴

1)慶應義塾大学医学部小児科、2)国立栃木病院小児科
3)東京都済生会中央病院小児科、4)島田療育園
広川秀明¹⁾、間 亨¹⁾、前澤眞理子³⁾、立花泰夫⁴⁾
平井克明¹⁾、上石晶子¹⁾

【目的】けいれんの素因を明らかにする目的で特発性小児てんかん症候群（以下IE群）、熱性けいれん（以下FC）患者のけいれん（てんかん、熱性けいれん）の家族歴を検討した。

【対象・方法】対象は1977年以降に小児科に受診したIE群502例、FC426例のうち、けいれんの家族歴の明らかな全般強直一間代発作を伴うてんかん（以下GTCS）140例（男子76例、女子64例）、小児欠神てんかん（以下CAE）98例（男子35例、女子63例）、中心側頭部に棘波を伴う良性小児てんかん（以下BECT）85例（男子48例、女子37例）FC292例（男子175例、女子117例）である。CAEにGTCSを合併した4例（男子2例、女子2例）は、CAEのみに含めた。FCは、脳波所見でてんかん発射が認められた群（FC With Spike; FCWS）111例、認められない群（FC Normal; FCN）181例に分類した。各患者の3親等以内のてんかん、熱性けいれんの家族歴の有無を検討した。

【結果】①IE群のけいれんの家族歴：GTCS 18/140 (13%)、CAE 24/98 (24%)、BECT 9/85 (11%)で発端者の性別による差はなかった。②FCのけいれんの家族歴：150/292 (51%)、FCWS 66/111 (59%)、FCN 84/181 (46%)とFCWSで有意（ $P < 0.05$ ）に高かった。③てんかんの家族歴：FCWS 15/111 (14%)、FCN 10/181 (5.5%)と有意差（ $P < 0.05$ ）を認めた。④IE群のてんかんの家族歴は、両親15/716 (2%)、同胞15/213 (7%)、FCの熱性けいれんの家族歴は、両親77/562 (14%)、同胞15/82 (24%)であった。

【結論】IE群、FCのけいれんの家族歴はFCWS、FCN、CAE、GTCS、BECTの順に高かった。